

全校研究テーマ

「主体的に学び続ける生徒が育つ学校」(2年次)
～生徒が自ら学びを深める場の設定は、どうあったらよいか～

指定校2年次 松本市立鎌田中学校 宮崎 晃司

1 昨年度の研究で見えてきた課題

研究指定をいただいた1年目は、「総合的な学習の時間」をはじめ、国語科や社会科などの教科・領域を中心に新聞の活用を図ってきた。2年目の今年度は、さらに新聞がどのような学習場面で有効であるかという点を明らかにしていきたい。そこで各教科の目標に即して、つける力を明確にした単元展開を構想し、1時間1時間の授業の中で必要となる教材研究を進めていきたい。教師からの一方的な新聞の提示をすることは避け、生徒の学びの中で、必然性のある新聞提示がどのようにできるかについて探っていくことをねらいたい。

教育における新聞の有効性は、数多くの実践で証明されている。本校は、それが生徒の学びにとって、どのように有効であったかを長い期間の中で追っていくことを目指している。1時間みの授業で、授業の賛否や生徒の姿を論じる以上に、授業以前の生徒の学びの姿はどうであったのか、そして本時の授業の姿が、今後の生徒の学びに、どのようにつながっていくのかという点について研究を深めていきたい。

生徒の実態は、年々変化している。例えば、中学生のスマホ所持率は5割を超えている。中学3年生では、7割以上という調査結果もある。情報を得る手段としての新聞は、もはや生徒にとって身近なものではない。生徒にとっては、新聞は手軽に情報を得る手段ではなく、新聞は「難しい」「読み方が分からない」「扱いづらい」ものになっている。こういった状況を踏まえ、生徒が新聞の有用感を感じることができるよう工夫が必要になってくる。この点についても、2年次の研究についての課題としたい。

2 実践のねらい

(1) 全校研究テーマ

本校は、昨年度より全校研究テーマを以下のように設定して、2年目の研究に入っている。

全校研究テーマ

「主体的に学び続ける生徒が育つ学校」(2年次)
～生徒が自ら学びを深める場の設定は、どうあったらよいか～

○めざす生徒の姿(鎌田中学校のグランドデザインとして位置づいている方向)

- ・学びの必要感をもって、主体的に課題に取り組むことができる。
- ・学習課題に対して、課題解決の見通しがもてる。
- ・自らの考えや思いをすすんで表現し、友と学び合いながら授業に参加できる
- ・自分の学びを振り返り、力の伸びを実感し、新たな課題がもてる。

① 「主体的に」の受け止め～「受け身」からの脱却～

生徒が「自らのうちに問いを生み、解決へ見通しを持って、粘り強く取り組み、自己の学習活動を振り返って、次につなげる」姿を主体的であると考え。そのために、生徒が自ら取り組める学びの文脈を生み出すことが先決であり、授業の本質である。そして、学習課題や学習問題を生徒にとって「身近で切実」なものとするのが主体的に学ぶ生徒が育つ学校の第一歩である。授業も家庭学習も受け身ではなく、自分から学ぶ生徒が育つ学校にしたい。そのためには、まず教師が考え方・授業の仕方を変えていこうとする営みが大前提になる。

② 教師の教授を生徒の学びに転換するために

「見方・考え方」を働かせる場面のある教科授業でありたい。知識を本当に使えるものにしていくには、各教科等の特性に応じた「見方・考え方」を再検討することが求められる。数学科における「統合的・発展的」、理科における「科学的」、社会科における「多面的・多角的」など、いわゆる教科の特性や視点を大切にし、それらの特性を関わらせながら学ぶこと（カリキュラム・マネジメント）で、自ずと学びは深くなる。逆に言えば、この授業でどのような「見方・考え方」が育つのかを見極めることが大切であり、それは「何を教えるか」といったことではなく、「何ができるようになったのか」「何が変わったのか」を意識した授業づくりである。教科の特性を意識した授業を心がけてきた。

(2) 国語科研究テーマ

「基礎的・基本的な力の定着を図る中で、他者との関わりを大切にしながら、自分の考えを表現していくための指導のあり方」

テーマ設定の理由

本校国語科は、「本当に大切にしたい国語の力」として以下のものを挙げ、研究や実践を継続してきた。

- ① 文字や言葉、文章を正しく読める力・書く力
- ② 言葉や文章の内容を理解できる力
- ③ 感じたことや考えたことを、わかりやすく表現し、相手に伝える力
- ④ 他の人が感じたことや考えたことを受け止め、自分の考え方に生かしていく力

本年度も、これらの力をつけるために研究を深めたいと考え、上記テーマを設定した。

(3) N I E実践を通して高めたいと考えたこと(育てた力)

昨年度の実践から、新聞に親しむ機会の少ない生徒たちが、授業や家庭学習を通して新聞に触れる機会を増やしたことで、新聞に対する「難しい」「読み方がわからない」などの抵抗感が少しずつなくなり、新聞との関わり方に変化が見られるようになってきている。

今年度は、新聞記事を活用して考えたことを伝えたり、友だちの考えを自分の考えと比較しながら聞いたりすることを通して、自分の考えをまとめる力を養いたい。そのため、生徒が考えたい身近な話題や、自分事として話し合いたくなる事柄を中心に題材を選ぼうと考えた。自分の生活経験から様々な思いを持っている生徒たちが、互いの考えを伝え合い、新聞記事を基に自分の考えを深め、友と意見交換することで「読むこと、書くこと、話すこと」の国語の力を高めていきたいと考えている。

3 研究の概要

(1) 新聞の提供状況

① 新聞コーナーの設置



新聞を見ながら語り合う生徒

7月から、毎日新聞・中日新聞・産経新聞・日経新聞の四紙を学校に届けていただけるようになり、理科室前廊下において自由に閲覧できる場所を設置している。9月から、朝日新聞・読売新聞・信濃毎日新聞を届けていただき、7紙置くようにした。

また、図書館には、信濃毎日新聞・朝日新聞の二紙を、一年を通して、いつでも閲覧できる場所を確保しており、休み時には、生徒たちが新聞を囲みながら話をしている姿が見られる。

② 生徒会活動での活用

7月に起こった西日本での豪雨災害に対して、本校生徒会では新聞の切り抜きを生徒昇降口に設置して、被害の大きさと被災者の状況について全校に知らせるとともに、「いま私たちにできることは何だろうか？」と全校に問いかけた。夏休み明けには、福祉委員会を中心に、その後の被害状況や復興に向けた活動などを、新聞を活用して全校に伝え、募金活動を実施した。



新聞を活用した掲示物

③ 家庭学習における「天声人語」の活用

国語科では、新しい言葉や漢字を覚えたり、社会にふれたりする機会として、「天声人語」に取り組み、わかりづらい言葉を辞書で調べたり、意見・感想を書いたりする家庭学習を実施している。また、コラムの要旨をとらえて、タイトルを考えることにも挑戦しており、「タイトルを見れば、筆者がこのコラムで一番伝えたいことがわかるようにする」ということを目指して、内容を簡潔にかつ的確に表現したタイトル作りに取り組んでいる。

使用するコラムは、その時々に応じた季節や文化に関わるものを教師が選び、全校生徒で同じ課題に取り組んでいる。ほかの記事と比べ、筆者の考え方がしっかり出ている場合が多く、簡潔な表現で内容が読み取りやすいため、生徒たちが興味関心を持ちながら活動しやすいところに素材の良さがある。



新聞コーナーと「天声人語」感想掲示



「天声人語」とコラムに関わる記事・感想の掲示

(2) 単元の構想 2学期授業実践

① 単元名 「あなたの考え 私の考え」(中学校第2学年)

② 単元設定の理由

病的なインターネット依存が疑われる中高生が約5年間で倍増し、全国で約93万人に上ることが厚生労働省研究班の調査でわかった。私たちの生活に欠かせないものとなっているスマホは、中学生にとっても関心事であり、自分の問題として必要感をもって向き合える題材であると考えた。

スマホに関して、学級でアンケートをとってみると、本学級の生徒の所持率は52%(共有含む)、スマホを持っていない生徒の82%が「自分のスマホが欲しい」と思っていることがわかった。スマホは「すぐに、気軽に調べられる」「動画やゲームなどで楽しむことができる」から便利だと感じている生徒が多くいる反面、「依存症や中毒になりそう」「勉強時間や睡眠時間が短くなりそう」という「やりすぎてしまうこと」に対して不安を抱いている生徒も多いこともわかった。

このことから、本学級の生徒の多くが、「便利だし楽しいことができるから自分のスマホを持ちたいけれど、やりすぎてしまうのは心配だ」と感じているということがわかってきた。

本単元は、新聞記事を活用して考えたことを伝えたり、友だちの考えを自分の考えと比較しながら聞いたりすることを通して、自分の考えをまとめる力を養いたい。そのため、生徒が考えたいくなる身近な話題や、自分事として話し合いたくなる事柄を中心に題材を選ぼうと考えた。以上のことから、スマホについて、様々な思いを持っている生徒たちが、互いの考えを伝え合い、新聞記事を基に自分の考えを深め、友と意見交換することで「読むこと、書くこと、話すこと」の国語の力が高まっていくと考え、本単元を設定した。

③ 単元の目標

- ・新聞記事を基に、自分の伝えたいことを明確にしてまとめる。(C-I・B-A)
- ・自分の考えを伝えたり、友だちの考えを自分の考えと比較しながら聞いたりすることで「スマホの使い方」をまとめる。(A-E)

④ 評価基準

- ・新聞記事を読み取り、自分の考えの基となる部分にマーカーを引くことができる。(読むこと) 新聞記事を基に、自分の考えを明確にしながらかまとめることができる。(書くこと)
- ・友だちの考えを自分の考えと比較しながら聞き、友だちの考えを踏まえながら、自分の「スマホの使い方」を考えることができる。(聞くこと)

⑤ 単元展開

時間	学習活動	○教師の支援 ・ 生徒の意識	資料等
1	<p>○クラスで実施した「メディアに関するアンケート」をもとに、2年2組のスマホ所持・使用の実態について考える。</p>	<p>○アンケートに書かれた内容から、スマホは便利・楽しいと思いつつも、使いすぎはダメと感じている生徒が多いことを押さえる。</p> <ul style="list-style-type: none"> みんな「すぐ調べられる」から便利だって思ってるんだなあ。 スマホ使いすぎるとやっぱり勉強時間が短くなるよなあ。 <p>○中学生はスマホを持った方がいいのか、持たない方がいいのか問いかける。</p> <ul style="list-style-type: none"> 危険だし、いろんな時間を削られちゃうし、持たない方がいいよ。 持ってもいいでしょ。その人が使い方を注意すればいいだけだよ。 <p>学習問題：私たちはどんなふうにスマホを使っていったらいいのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> 将来、スマホ持つとき、何に気をつけながら使えばいいかな。 今、スマホを使っているけど、特に親と約束とかもしていないし、どういう使い方がいいかなんて考えたことないなあ。 <p>学習課題：アンケートや新聞記事をもとに、私たち中学生のスマホの使い方を考えよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○自分の考える「中学生のスマホの使い方」をまとめるようにする。 宿題もあるし、時間を決めて使うのがいいんじゃないかな。 ルールを作ればいいのかもかもしれないけど、守れるかなあ。 	<ul style="list-style-type: none"> メディアに関するアンケート結果 学習カード
2	<p>○自分の読んでみたい新聞記事を選び、新聞記事を読み取る。</p> <p>○新聞記事をもとに、自分の考えを書く。</p>	<p>○見出しを参考に、自分が読んでみたい記事を選び、選んだ新聞がどんな記事なのか簡単にまとめるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「スマホばかり見ないで」にしようかな。自分も結構スマホばかりみちゃうし。 今年は災害も多かったし「被災・停電ツイート拡散」を読んでみよう。 <p>○一人だと読み取りが難しい生徒は、同じ記事を選んでいる生徒と同じグループにする。また、自分が記事のどの部分に着目したかわかるようにマーカーを引くように提案する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「ギリシャ・熊本からも発信」のところにマーカーを引こう。世界中のどこからでもツイートできるのがスマホのいいところだな！ <p>○「□□だから、いいな」「□□だから、ヤバイ」を一文でまとめたカードを作り、自分の意見をまとめる場を設定する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「歩きスマホをすると事故を起こしてしまうからヤバイ。」自分がスマホに夢中になって事故を起こしてしまったら、相手の人に怪我をさせたり、死なせてしまったりするかもしれない。歩いている時にはスマホを使うのはやめよう。 	<ul style="list-style-type: none"> 学習カード 「7人に1人の衝撃」信濃毎日新聞 「手には四六時中スマホ」産経新聞 「ながらスマホ事故警鐘」朝日新聞 「スマホばかり見ないで」中日新聞 「ネットいじめ」産経新聞 「君の悩み SNS で聞かせて」朝日新聞 「被災・停電ツイート拡散」朝日新聞

3	<p>○自分の考えた「いいな」「ヤバイよ」を伝えたり、友だちの考えを聞いたりする。</p>	<p>○自分で書いた文章や新聞記事を見返し、前時を振り返るようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カードや記事を見せながら、わかりやすく伝えられるかな。 ・友だちはどの新聞記事を選んだのかな。どんなふうに使った方をまとめたんだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学習カード ・「ヤバイよ」カード ・「いいな」カード
	<p>学習課題：新聞記事や友だちの意見をもとに、自分はスマホをどのように使っていきたいかについて自分の考えをまとめよう。</p>		
<p>○これまでの授業を振り返り、「スマホの使い方」をまとめる。</p>	<p>○自分の考えと友達のを比較させるために、違う記事を選んだ生徒または同じ記事でも着目点異なる生徒でグループを作らせる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・□□君は「君の悩みSNSで聞かせて」から「気軽に相談できるから、いいな」のカードを作ったのだなあ。スマホの良いところは、友だちとつながるだけじゃなくて、いろいろな人とつながれるところにもあるんだな。 ○どの記事の、どんなところに注目して、相手が考えをまとめたのかを注意して聞き取るようにする。 ・□□さんは信濃毎日新聞の記事の「自分をコントロールできなくなるからヤバイ」と考えたのか。 ○記事やカードを示しながら、自分の考えをわかりやすく伝えられるようにする。 ・自分の考えがしっかり伝わるように、友だちの方に記事に向けて、きちんと聞こえる声で話すようにしよう。 ○新聞記事や友だちの考えを踏まえた上で、自分がスマホとどうつきあえば良いと思うのかをまとめる。 ・僕は、スマホは便利だけど、四六時中スマホを手にするような依存症にはなりたくない。だから、使うときと使わない時を、ちゃんと自分で考えて使っていきたいな。友だちや家族と一緒にいるときは、その人たちと過ごす時間を大切にしたいし、スマホゲームや動画は楽しいけれど、スマホがなくても楽しむことができるようにしたい。 		

⑥ 本時の主眼

新聞記事をもとに「中学生のスマホの使い方」を考えてきた生徒が、「どのようにスマホを使っていきたいか」を考える場面で、新聞記事をもとにまとめた自分の考えを友に伝えたり、友の考えを聞いたりすることを通して、相手の考えと比較し、そう考えた根拠を明確にしながらか自分の考えをまとめることができる。

4 生徒の学びの姿

A生の4月からの学びを通してみると以下のようなになる。

【1学期新聞活用をした授業を振り返って】西日本豪雨を扱う三紙の比較(7月)

新聞によって同じ記事(事象)を扱っていても、それぞれの新聞に書き方の違いや視点の違いがあることがわかりました。それぞれの新聞の特徴を見極めて、自分の考えを持ちながら、自分の情報にしたいです。

【2学期新聞活用をした授業での記述】「レジには店員は必要か」

私はレジに店員は必要だと思います。新聞記事のように、高齢者の方や障害を持っている方などは、自分で会計することができない人も多いと思うからです。また、店員の方と話ができると笑顔になれると思います。でも、急いでいる人や話すことがあまり好きでない人は、レジに店員は必要ないと考えます。



2018/8/21「信濃毎日新聞」

【班での意見交換を終えて】

班の中では、両方必要という考えの人が多かったです。高齢者の方、障害を持っている方、急いでいる方などそれぞれだからです。でも、その中で、将来自分も同じ立場になった時のことを考えて、レジには店員が必要と考える人がいて、その考えも良いと思いました。

A生は、自分事として記事に綴られた事柄に関わり、自分自身の見方・考え方を構築していつている。また、友と意見交換をすることで、視点を広げていくことの良さにも気づいている。

【本単元導入】クラスのアンケートを基に考えた「中学生のスマホの使い方」

一日の使用時間を決める。家族と話す時間をつくる。外出しているときは、スマホの使用量を減らす。調べ物にスマホを使うことは、動画やSNSなどよりは良いと思うけど、なんでもかんでもすぐに調べるのは良くないと思う。スマホを使う前によく考えて使用する。

初めは、クラスの仲間から出た問題の解決につながる使い方を箇条書きで書いていたA生だが、最後は「よく調べものをする」と回答した自分自身を振り返り、自分がスマホとどうつきあっていけばよいかを考えた記述になっている。A生が考えをまとめていく上で、「中学生のスマホの使い方」から「自分のスマホの使い方」を考え始めた瞬間である。

【第2時】新聞記事をもとに考えた「中学生のスマホの使い方」

私は産経新聞の「手には四六時中スマホ(2018/9/1)」という記事を読みました。この記事は、ネット依存の中高生が93万人に上り、中高生にネット依存に関して質問をした結果や実際に依存症になってしまった人の話などが書かれています。私は、中高生に質問した結果、ネット依存で問題を起こした経験の中で、「成績低下」が5割と最多だということに着目しました。中高生の時は、これからの人生を決める大切な時期です。なのに、ネットが原因で人生が壊れてしまうのは、もったいないことだなと思いました。このことから私は、中学生は一日に使うスマホの量を決め、勉強するときは勉強する、遊ぶときは遊ぶというように、メリハリをつけて生活をしなければいけないと考えました。



2018/9/1「産経新聞」

7つの新聞記事の見出しから、自分が考えたいと選んだ記事とじっくり向き合い、内容を正確に読み取った上で、自分の考えの基となる部分に着目しながらまとめる姿があった。

【第3時】 友との交流を終えた後に考えた「スマホの使い方」

スマホを使うときは、メリハリをつけて使うということや、友達といるときは、友達と話をするということが、歩いているときは邪魔にならないところによけて使うなどの考えが生まれました。私は、「スマホを持つ」ということを前提で考えていましたが、友達の意見の中で、「中学生はスマホを持たなくていい」という考えがあり、驚きました。確かに、スマホは便利なものですが、ゲームやSNSなどのためだけにスマホを使うなら、中学生はまだ持っていないでも良いのではないかと思います。スマホが必要な人は、生活のリズムを乱さないような使い方をしていけば良いと思います。

A生は、友達との交流が始まると、発表する友達の顔を見ながら、その考えに耳を傾けていた。時折、友達の示す記事を見て、自分が書いたワークシートも見ながら、その友達の考えと自分の考え、あるいは記事を見比べている様子も見られた。そのA生の顔に驚きの表情が浮かんだのは、自分が選んだ記事と同じ「中高生ネット依存」を扱った信濃毎日新聞の『7人に1人の衝撃』(2018/9/1)という記事を選び、考えをまとめた友達の「スマホは持たなくていい」という意見を聞いたときだった。しかし、自分とは異なる考えであっても、友達の考えには納得できる部分があると感じ、その考えを踏まえながら自分の考えを再構築している。「メリハリをつける」という元々の自分の考えと、「使用時間が長くなり、家族や友達との会話が減り、コミュニケーション能力が下がってしまうから、中学生はまだスマホを持たなくていい」という友達の考えをあわせて、「生活のリズムを乱さないような使い方」という考えに至った。

【本単元末】

この授業の初めに自分が考えていたことと、新聞記事に書いてあることや友達の考えが違っているところがありました。一つのことから、たくさんの考えが生まれて、その考えを比べるということもおもしろいなと思いました。

一学期からの新聞を使った実践を見返すと、生徒の姿から見えてきたものがある。それは、新聞を読んで自分の考えを持ち、その考えを友と伝え合うことで、考えを再構築するというサイクルによる学びの循環である。このようなサイクルで学習活動が連続して展開されることで、文章を読むときには、自分なりの視点を持って読み、考えをまとめるときには、自分の考えを友達に伝えることを意識してまとめ、話し合いのときには、友達の考えと自分の考えを比較しながら聞き、友達の考えを踏まえた上で自分の考えを再構築していくという国語科の養うべき力がつながりをもってくる。これは、継続的に読み解くことで自分の考えを持ち、友と伝え合うことで比較検討することにより、自分の考えを深めていった生徒の姿から見えてくることである。国語の力は、一朝一夕でつくというものではなく、新聞を読むことで国語科のつける力を総体として向上させることができた取り組みだったと考えられる。

5 研究のまとめ

国語科における新聞を活用した授業、家庭学習を考える上で、「国語の総合力をつける」ための有効な活用の仕方を意識してきた。実践を通して、「新聞を読むこと」が学びの潤滑油となり、学びのきっかけとなることを実感した。また、「文章を読み、どの部分に着目し、どのように自分が考えたか」をまとめる力や、友達の考えと自分の考えを比較しながら聞き、自分の考えを再構築していく力が、他教科においても発揮されていると感じる。